

自己点検の視点	点検結果	結果の根拠	改善に向けた取り組み
プログラムの履修・修得状況	○	数理・データサイエンス・AI教育プログラム (応用基礎レベル) を構成する多くの講義で、受講率が90%を超えている。	選択科目 (1科目) で受講者数が少ない。次年度以降に該当講義を必修化するなど、受講者増に向けた取り組みを行う。
学修成果	○	多くの学生が数理・データサイエンス・AI教育プログラム (応用基礎レベル) を受講しており、知識が深まったとする回答も多く、一定の学修成果があったものと考えている。	講義の満足度について改善するため、授業の内容を精査する。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	△	プログラムを構成する講義に出席し、知識を深めることができたと回答する学生が多かった。一方で自習努力や分からないことを自分で調べることを積極的に行なった学生が他の項目に比べて少なかったことが今後の課題である。	小テストやレポートを課して、自ら学ぶことを推奨するような講義を展開する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	△	開始年度にあたり、一部講義にて受講者が少なかった。これは一部講義が選択科目として開講されているからであり、次年度以降に選択必修科目あるいは必修科目に変更することが計画されている。	講義の必修化により、次年度以降に履修者数が増えることを見込んでいる。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	評価なし	R5年度は本プログラムの開始時期にあたり、本年度は教育プログラム修了者が存在しない。よって進路・活躍状況・企業等の評価を記載することができない。	本プログラム修了生の追跡調査を行い、本項目の改善を図る。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	評価なし	R5年度は本プログラムの開始時期のため、評価を記載することができない。	令和5年度の半ばに東海デジタル人材育成プラットフォームの会員校となったことを受け、産業界の幅広い視点を取り入れた教育プログラムの内容・手法に改善する参考にしたい。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○	「配布した教材が授業理解に役立った」の項目について、その他の項目よりも評価が高かった。一方で指定された教科書等が授業の理解に役立った項目の評点が低かった点は課題である。	シラバスに示した教科書・参考書などについて、次年度以降に見直しを行う。加えて教科書を積極的に講義に利用する。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○	授業の進度、およびシラバスの適切性に関する項目の評価は相対的に高かった。授業のポイントや主題についても評価項目が高く、わかりやすい授業とする取り組みが適切になされたと考えている。	引き続き授業の内容を精査し、わかりやすい授業とする改善を進める。